

会議録（要旨）

- 1 会議名 第5回行政改革懇談会
- 2 日時 平成20年7月11日（金）午後1時30分～午後3時15分
- 3 場所 西木開発センター 農林研修室
- 4 委員 出席委員8名

【概況】

■副市長あいさつ

今年の4月から副市長として勤務させていただいております。よろしく申し上げます。

仙北市がどのような状況かちょっと調べてみたところ、平成17年9月の合併時から現在まで、ほぼ毎月人口が減りつづけています。現在の減少ペースが続くと、平成22年には3万人を割り込んでしまう計算になるため、何とかしてこの人口3万人を維持しようと、市では様々な計画を立ち上げており、重点プロジェクトとして定住促進・テンミリオン・産業連携の3つが動いております。

人口減に対応する政策を進めながら、行政機構はできるだけスリムな形が望ましいことから、行政改革の専任組織として行政改革推進室を立ち上げ、機構のシェイプアップによって浮いた力を地域づくりに振り向けていきたいと考えております。

委員の皆様方には貴重な御提言をいただいているわけですが、これらの趣旨を踏まえまして積極的な御議論を展開していただきますよう、よろしく申し上げます。

■案件

（1）仙北市行政改革の推進状況について

事務局 （資料1により、平成19年度行政改革大綱行動計画の進捗状況を説明）

委員 ・いろいろと努力の跡は見える。内陸線の関係で補助金の話があったが、県でも9月には目処を付けたいような考えのようで、補助金の詳細を教えてください。
・前回の懇談会でも実質公債費比率の話が出たが、このピークはいつごろと見込んでいるか。また、公会計改革に伴う連結決算の影響は。

事務局 ・内陸線補助金は、内陸線の赤字に対する補助であり、赤字が減少すると補助の額も減少します。県と沿線自治体の補助上限は合わせて1億5千万円であり、仙北市の負担分はこのうちの19.7%です。
・議会の対応としては、内陸線存続の特別委員会が組織され（北秋田市でも同様の委員会が立ち上げられた）、実質的な議論はこれから行われる予定です。
・実質公債費比率については、H22～23がピークと見込んでおり、公債費は適正化計画に沿った対応を進めているところです。また、連結決算となるこ

とによる実質公債費比率への影響はありません。

委員

・公立病院改革プラン関連で、角館総合病院の施設は老朽化が進み、中も複雑になっている。市としては、改築の予定をどのように考えているか。

事務局

・公立病院改革プランは今年度中に策定することとされており、その中で改築についても考え方が示されるものと認識しています。

委員

・この行政改革懇談会で出された意見が、実際に反映された実例はあるか。
・機構改革による新しい部署はいくつできて、何人ぐらい配属になったのか。必要があって作られたと思うが、行革という点では、いくつか一緒にしてできるものがなかったのかと思う。
・人口が減少していく中でお年寄りは増えており、市としては特に若い世代の人口の流出を止める策はどのように講じているのか。跡継ぎの不足、子どもがいないといった大きな問題をどう考えているか。
・自殺予防などの問題もあり、今現在住民が何に困っていて、何に悩んでいるかということをとらえるため、市はどのように取り組んでいるか。
・市民との意思疎通とか市政・行革の情報提供を充実して、市民が将来に希望を持って安心して暮らせるようなことをしてもらいたいと考えている。

事務局

・配置人数については、行政改革推進室・病院経営改革推進室・福祉施設等民営化推進室に各3名ずつ、重点プロジェクト推進室については5名（平成19年度発足当初は6名）となっており、今年度で任務を終える予定です。それぞれ、個別の改革テーマに特化して重点的に取り組む体制をとることとしたため、集約せずこのような形となっています。
・行革のPRについては、出前講座という形で広報・HPに掲載したところですが、現在のところ利用申し込みがなく、市側から押しかける形にしないと難しいかもしれません。この講座は、以前実施していた行政懇談会の参加者が少なかった反省を踏まえ、やり方を変えてみたものですが、これで申し込みがなければまた別の方法を考えることになると思います。
・懇談会の意見の反映については、行政改革大綱を策定する段階でさまざまな意見をいただいております、HP等で市民の方から伺った意見も踏まえて大綱の策定を進めた経緯がありますし、懇談会の場でいただいた意見は各担当課に申し伝え、活用させていただいているところです。

委員

・進捗状況については、各課から上がってきたものを取りまとめたものなのか、それとも行革担当が独自にまとめたものなのか。
・また、行革の効果について、例えば学校統合なら、これだけのものが削減できるはずだということやするのか、統合したらこれだけ減ったというのを単に挙げているだけなのかの違いで効果に対する見方が変わってくるが、その辺はどうか。
・公の施設（指定管理者）や民間委託の推進などについても、それぞれの施設

の目的があって設置されたことなので、その目的に合うかどうか、効果はどうかという考え方を念頭に進めているということか。

事務局

- ・進捗状況については、各課から上がってきたものについてヒアリングを行い、行革担当から不足な点や改善点などの意見を伝えた上で取りまとめています。年の中間でもヒアリングを実施して、進捗状況を検証しながら行革につなげていきたいと考えています。
- ・学校統合については、そもそも学校の設置には教育という大きな目的があるため、その一番の目標である学校教育のあり方や進め方を検討した結果、統合の方向で進むこととなったものです。今回の資料には、統合によって得られた削減効果を金額の形で載せています。
- ・公の施設（指定管理者）や民間委託の推進についても、個々の施設の目的に合うかどうか、効果はどうかということを検討した上で進めています。

会 長

- ・行革の基本的なスタンスとして、市では今何を改革していかなければいけないか、それをどのように進めていくのかということが求められている。例えば、各課における問題点について、これをいつまで、どのくらいの水準に直していくんだという計画に基づいて取り組み、一年間経過してみた結果を検証して次に生かす、こういう取り組み方が必要。
- ・様々な方面からの指摘などを含めて、現状がどうなっているかを現課が分析し、目標となるところに向かってこのように改革していくという計画を行政改革推進室に出す。それをヒアリングで検証して、改善するところは改善するという形で進めているという風にとらえてよいか。

事務局

- ・そのとおりです。検証した結果等については、これまで公表してこなかったものを、今後はHP等で公表し、懇談会の皆さんだけでなく市民の方々からの意見も伺いながら進めていくこととしています。

委 員

- ・HPの話が出たのでひとつ、市民が意見を出しやすいようなHPのあり方を検討していただきたいと思う。

委 員

- ・人口減は、市の活性化には一番大きな問題だと思うが、この主因は転出によるものか亡くなる人が多いことによるものか。また、この人口減について市の対策は。
- ・福祉施設の民営化については、民営化はいいがサービスの低下につながるようでは困ると心配しているが、それを防ぐような手立ては。
- ・出前講座について、わざわざ講座という形をとらなくても、実際に住民が集まっている場がいろいろとあるのだから、そこで話をするようにすれば、市の取り組みを市民に伝えることはできるのではないか。

事務局

- ・人口減については、社会減と自然減のどちらが多いのかといった詳細な資料を用意して後ほどお知らせしたいと思います。

・福祉施設については、福祉施設等民営化推進室が担当し、当面はたざわこ清眺苑の民営化に取り組みます。議会の行政改革特別委員会でサービスの低下を招かないように進めてほしいというお話をいただいたことも踏まえ、今ちょうど検討している最中です。詳細が分かった段階でお知らせできればと考えております。

・出前講座については、市民の方が集まっている機会をとらえてこちらからお邪魔するような方法について、担当課の方に申し伝えます。

委員

・定住促進に関連して、少子化・人口減については、働く場所がないことによる影響が大きいのでは。働く場所を用意することも難しいと思う。よそから定住に来てもらうことも大切だが、ここにいる若い人がここに残ってくれるようなことに力を入れるべきではないか。

委員

・若者が出ていってしまうと、残った親たちには介護の問題が残る。介護には非常に多くの税が使われていると聞いて、大変なことだと感じた。

・若者が出ていってしまうのは、働く場がないだけでなく、この町に魅力がないのではないか。このままでは年寄りだけの町になってしまうのではないかと心配している。

会長

・長寿社会への対策、若者の定住対策という意見だと思うので、これらは政策の中で対策を講じてほしいという意見としてお伝えいただきたい。

委員

・小学校の統合について削減効果を書いているが、角館統合小学校の新しい校舎やグラウンドなどを整備するのに相当の経費がかかっているはず。統合によって削減された経費だけでなく、解体や校舎整備などにかかった経費もここに載せるべきではなかったか。

・内陸線については、パックツアーなどが次第に知られてきており、もう少しがんばればどうか、というところなので、そんなに急いで数字的なものだけで決めるのはどうかと思う。

委員

・組織機構について、地域センターについてはそろそろ役割は終わったのではないか。というのは、総合窓口課と本課、どちらに話をすればいいのか分からないことがある。

・HPについて、情報の掲載時期が遅いと思う。HPを担当する総合情報センターに対して、各課からの情報提供が遅すぎるのでは。

・議会に行政改革特別委員会ができたという話があった。これは、行革について市民の代表で検討することになるから、行政改革懇談会は不要となるのではないか。今後続ける予定か。

事務局

・この懇談会は、議会とは違った立場からのご意見を伺いたいという立場ですので、今後も継続していきたいと考えています。

・地域センターについては、現在本庁舎方式への移行について検討していると

ころですが、地域センターに代わる窓口的な部分等を担う部署は必要と考えられており、廃止するような方向では検討しておりません。

会 長 ・ 定員等の数値目標について、この資料に載せる場合に最終目標はどうなっているかということも載せないと、全体の流れが分からないのではないか。また、税の徴収率については、内訳を示すなどして誤解を招かないような工夫をしたり、参考として同規模団体との比較資料を載せるなどしてもよいと考えられる。税の公平性確保の観点からも、必要ではないか。

事務局 ・ 表しかたに工夫を加え、修正したいと思います。

(2) 仙北市行政評価の導入について

事務局 (資料 2 により、行政評価制度の概要を説明)

会 長 ・ 対象となる事業はハード事業だけでなく、ソフト事業も含むのか。また、対象事業数は。
・ 各課で、きちんと取りまとめる職員がいないとしくみが機能していかないと思うので、今の出だしのところで気をつけて進めていただきたい。
・ 評価の低いものについてはどのように扱うのか。

事務局 ・ 対象事業にはソフト事業も含んでおり、評価についてはすべて公表する予定です。HP 等での公表を考えています。
・ 本格導入後はすべての事業を対象としますが、今年度は試行の形で実施しておりますので、行政改革推進室で指定した約 180 の事業を対象としています。
・ 評価が低い事業は即廃止ということではありません。どうしてそのような低い評価になったのか、どのような改善が必要かといったことを各担当において検証してもらうこともこの評価制度の大事な部分であると考えています。

会 長 ・ 市の職員がただ漫然と仕事をするのではなくて、市政運営において問題意識を持って仕事に当たる方向に向かうという点では評価できる。

委 員 ・ 時間も労力もかかって大変な作業である。県内ではその町村はやっているのか。

事務局 ・ 秋田市、横手市はすでに導入しており、県内では早いほうになるが、全国的に見ると秋田県は導入が遅れているので、かえって遅いほうかもしれません。

会 長 | ・ 20年度は試行ということだが、来年度からは本格導入という形に向けてがんばってもらいたい。

(3) その他

委 員 | ・ 出前講座は、各地区に住む職員から町内会長などに声をかけてみては。

委 員 | ・ 仙北市はイベントが多いわけだが、市の補助が出ている田沢湖まつりなどは地元の参加が減り、他県から助けをもらうような状態になっている。市は補助者の立場として、助ける体制がとれないか。補助が無駄遣いにならないような対応を考えては。

委 員 | ・ H P の情報提供の迅速化・情報量の充実をお願いしたい。

会 長 | 市のほうから何かありますか。なければ閉じたいと思います。
私どもの任期は2年間となっておりますが、また公募が行われるとすればぜひ応募いただきまして、またこの会議に参加していただければと思います。
2年間大変勉強させていただきました。つたない座長でありましたが、大変ありがとうございました。

■行政改革推進室長あいさつ

本日は悪天候の中ありがとうございました。皆様からいただいた御意見を行政改革に反映させて参りたいと考えております。また、今回の懇談会の議事録などについては、市のH P に掲載し、市民の方々にお知らせしていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

今回の会議が任期中最後の会議となりましたが、本懇談会は継続していくこととしており、次の委員の方についても公募委員の募集を行う予定としておりますので、ぜひまた委員となられまして、引き続き我々を御指導くださるようお願いいたしまして閉会したいと思います。本日はありがとうございました。